

第2回 阪南市総合計画審議会 要旨

日時：令和2年3月1日（月）10：30～12：30

場所：阪南市防災コミュニティセンター1階 研修室

●まちの魅力向上について

- ・ まちの魅力低下というが、逆にコロナ禍においては魅力が向上している
→テレワーク、ワーケーションのチャンス
 - ・ 交流人口、関係人口の増加
→古民家などを活用した2拠点居住
→国の交付金を活用し、古民家特区を作るなどの政策が必要
 - ・ 里海・里山を活かした暮らしの提案
→周辺市町ならびに全国的に子育て世代の確保を掲げて取り合いをしているなか、阪南市を選んでもらえるものか。
- ▷事例：空き家コンシェルジュ
- 空き家専門の流通を担うコンシェルジュの活用。例えば、1年のうち法事の3日だけ貸せないために流通に乗せられなかったが、コンシェルジュがその3日を仕切って、法事・盆の時期だけ借主を外へ出してもらう手配を行う。
 - ・ 阪和線と南海の駅間をどのようにつなげるかを考える
→エリアでの活用方針

●公共施設の有効活用について

- ・ 志摩市まちづくりにおいて、公共施設総合管理計画では、公共施設のしまい方が記載されている。
→シェアハウスや市民協働、まちづくり条例等を活用し、また市民ワークショップを開催して方向性を決定

●阪南市のブランディングについて

- ・ 阪南にまつわるネーミングは、阪南市のほか、阪南町（阿倍野区）、阪南大学（サッカー）とあり、「阪南」で阪南市そのもののイメージが想起されにくい。
- ・ イオンなどのメガスーパーに行きやすい立地
- ・ なにわ酒造など、以前は酒・みりん等は地元消費であったが、経済拡大とICTの発展によって地元消費は冷え込んでいる。
▶【HW】地元産品の消費を、消費者が考えられるのか、どうしたら地域の中で経済が回るのか（活性化につながるのか）、各人の考えを検討
- ・ 企業、起業の促進
▷例：韓国ドラマのスタートアップ
 - ・ 資金のないベンチャー企業のスタートアップを支えるサンドボックス（＝子どもの遊び場）という韓国のシリコンバレーで夢見る若者の成長ストーリー
 - ・ 市でも、大きな会社の誘致だけに注力するのではなく、小さな企業などのスタートアップ支援を行うことも検討として必要

- ・(自身で) 試しに、市を中心としたInstagramを立ち上げて発信してみたら、登録者数が増加してきている。
 - 若い人がよく使っているツールを活用することが必要。
 - モノ消費ではなく、体験などのコト消費を発信していくことが重要。
- ・尾崎駅名を「阪南市」に変更するなど、認知してもらいやすい取組みが必要
 - 南海電鉄と協議が必要

●阪南市における今後の戦略について

- ・子育て世代の流入を確保するということが、子どもを育てるには教育が重要
 - 市内の進学率が高いなど、教育分野の向上が必要
- ・地元スーパーがないというが、実はマツゲン・エバーグリーンなどが進出し、10か所ほどチェーンストアが存在
 - 買い物バスなどの巡回を検討してもよいのではないか
- ・阪南「市」である必要はあるのか。
 - 阪南町に戻ってもいいのではないか。福祉のまちづくりは住みよさの核となる重要な概念なので、そのことを念頭に置いて検討するのがいい。
 - 町となって、大阪府と一緒に頑張るのか、市として独自に頑張るのか、2040年自治体戦略の中では、市をバックアップしなさいと記載されている。双方に上手い権限の持ち方を検討することも必要。
- ・子どもの権利を守る
 - 多くの子どもに対して、学ぶだけでなく「遊ぶ」というのが子どもの権利条約には含まれているので文言の追加を願う
- ・まち全体の地域の子育て力を向上
 - 子どもに寄り添うということは心に寄り添う、近所の声掛けや親・親戚の関係性が重要。
 - 子育ては一人ではできず、親や地域の支え合いが必要
- ・親や地域の支え合いを発展させるためには、まず大人が学び地域に広げていくことが重要。
 - 専門家が教えた内容を、大人が実践する等
 - 地域が家庭環境に応じた教育的実践に取り組む等
 - 子育てについての考え方は、地域や家庭によって各人異なるのが現状。
- ▷事例：オランダ
 - ・オランダでは、子どものときから、カリキュラム等の使い方を学ばせ、自主学習など、責任を持たせた教育環境にある。
 - 日本では、大人の働き方（残業等）によって、子どもの時間の使い方に影響が出ること考えていく必要がある。
- ・現状の調査報告と提示されている理念において、表現内容が乖離しているように思える。
 - 若い世代を呼びたいのなら、どのようなキーワードで呼ぶのかを明確にすることが必要
 - 地域プレイヤーとあるが、何を想定しているのか。
 - 既存の組織との関係構築を行うことが必要。

- ・ **財政非常事態宣言が出ているなか、ネガティブではなく、ポジティブに捉えていくことが重要**
 - 10年先の未来を打ち出す理念であれば、現状でよいと考える。
 - 現在の状況と理念に乖離があるというのであれば、それが今の現状。古いやり方を踏襲してはいつまでたっても変わらない。
 - ・ **他市のモデルケースとなるような非常識なことをやってもいいのではないか。**
 - 協働を進めてきたなかで、まだ市民と市との隔たりを感じる。市がどこまで覚悟をもって望むかが重要。
 - ・ **土地利用について**
 - 市は今まで高度成長期において、土地利用を進めて整備してきた。
 - 環境配慮型の都市発展など、主婦層などが自由に働ける環境を整備する、そのためのインフラ整備が必要
 - プレイヤー/ストックを充実させていくことに加えて、土地利用を拡大することが重要
 - ・ **元気な高齢者をどのように活用していくのかの視点が重要**
 - シニア起業を応援するなどのバックアップが必要
- ▷ 事例：箱の浦などの地域独自発展した地域福祉モデルなど
- ▶ **【HW】** 阪南市の特徴を持ち寄り、今後の戦略を考えてきてもらいたい。